

117
/

正信念佛偈問答解完

米田治右衛門 閱
小杉 陶藏 述

明治十九年
十一月發兌

共濟會藏版

018187-000-7

特18-427

正信念佛偈問答解

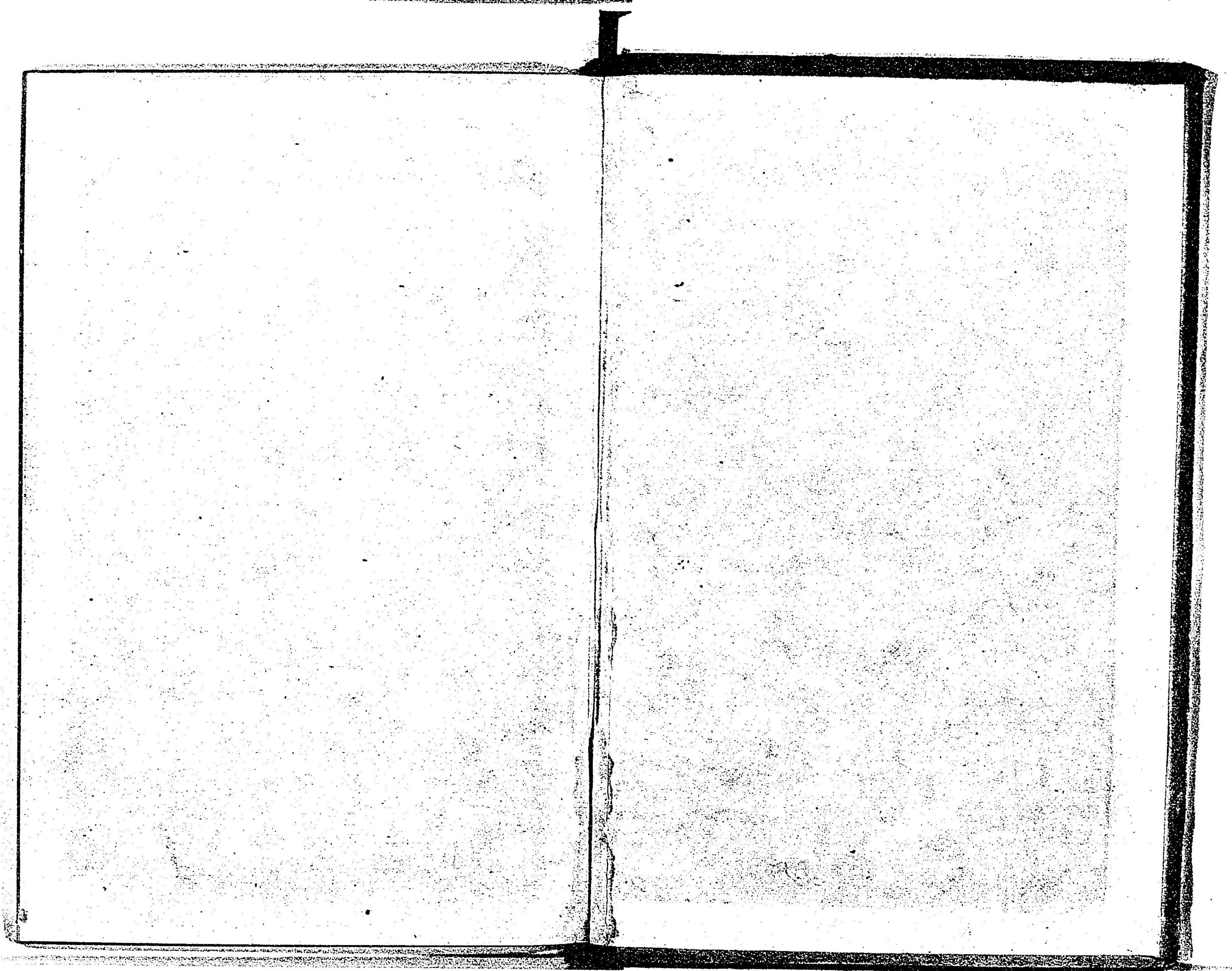
小杉 陶藏 / 著

M19. 11

ABF-1300



卷
4



明治十九年十一月

小序

一言師父ノ恩誨ヲ思ヒ一筆祖佛ノ徳力ヲ仰キ僅ニ陳
編ニ蒐集シテ爰ニ本偈ノ意旨ヲ述フ卷分ツコト三名
テ正信念佛偈問答解トイフ然レトモ佛教ノ理趣一條
ノ説ノ能盡シ得ヘキニ非ス況ヤ生カ如キハ生來ノ惑
愚意惹起方ニ言辭野鄙ナリ爲ニ憚ル頗ル偈文ノ義ヲ
遺シ大師ノ意ヲ盡サル亦多キコトヲ若シ人々ノ轉
迷開悟ニ一便ヲ與フルアレハ僥倖之ニ過キスト云爾

明治十九年十一月

編者謹誌

正信念佛偈問答解上

米田 治右衛門
小杉 陶藏 述

問 正信と如何 答 報土得生の真因にして彌陀如來の
 眞實信心なり乃ち邪信と反對す 問 邪信と如何 答
 能信所信各別にして妄我の見を離れざるをいふ 問 念
 佛と如何 答 稱ふれいてき稱へされらうするこれ
 を自力の稱念といふ今この念佛の正信の了解の言ふは
 らるゝものなれは所謂無爲常住の念佛にして自力間
 斷の稱念よあらざるなり 問 偈と如何 答 句數の義
 なり乃ち七言の句數一百二十を以て正信念佛の意味を
 明し衆生をして速に報土得生の素懷を遂しめんとなり
 問 下の文段の分別を聞ん 答 初の二句は方法固有の本

体を明し眞宗安心の歸着を示す次の十八句ハ彌陀本願
 の本末を説き万機普益の妙法を教へ次の十二句ハ釋迦
 出世の眞意を顯し聖凡齊入の直路を指へ次七十二句の
 中初の四句ハ高祖の素意を陳へ次の六十八句ハ利生の
 正説を示す終の四句ハ偈父の結勸なり
 无量壽如來ふ歸命し不可思議光南无したてまつる
 問この二句の意如何 答南无阿彌陀佛の翻譯よして佛
 説通申の元意なり 問歸命と如何 答南无の華譯よ
 して命を无量壽不可思議の佛体よ歸すとなり 問无量
 壽と如何 答如來の覺体なりこの覺体ハ豎よ三世を
 貫きて生住異滅の相を離る故よ无量壽といふ 問如來
 の覺体ハ何處よ在りや 答方所なくして一切よ遍滿す

問その五三を聞ん 答火の燒煖する水の濕潤する花ハ
 紅よ柳ハ緑よ雪ハ白よ烏ハ黒よその他万物固有の眞理
 ハ皆如來の覺体なり 問何故よ万物固有の眞理ハ无量
 壽なるや 答那由他億の前よ始なく俱庇百僚の後よも
 終なし故よこれを无量壽といふ亦眞如法性の極理とも
 いふなり 問如來の義如何 答如ハ如常の義よして變
 易なき眞理をいひ來ハ來生の義よして因縁よよりて法
 性の如く現ハるよをいふ乃ち如常の眞理ハ色形よ來生
 せるを如來といふなりこれを本覺の阿彌陀とす 問不
 可思議とハ奇怪なることをいふか 答否す 問昧と
 して自己の徳想の及ハさるところをいふか 答否す
 問然ハ不可思議とハ何の謂ぞ 答横よ十方を盡して

我他彼此の見なきこれを不可思議といふ問不可思議の字義如何答思の分別なり識の量計なり分別の念の量度の計より起る故に不可思議の分別量計を離れたるの名なり問その体如何答前よ明すところの万物固有の眞理此れ即ち不可思議の体なり問その例を聞ん答人の尺寸を比較して尺を長と思ひ寸を短と思ふもし丈を以て尺と臨み分を以て寸と對せし長短と成り短の長と成る然れん則ち尺の唯尺寸の唯寸而してもしこの長短を實有とすれん則ちこれ妄見と謂はざるへからす是よ知ぬ眼耳鼻口を首として万事万物の功用の如來眞理の自動として固より我他彼此の別なきをされん我他彼此實有の念慮の只これ凡夫の妄見なりこれを

以て宜く不可思議の義理を知るへし問光との如何答靈明不昧として法界は障なく即ち眞理は契當したる如來正覺の智徳なりこれを始覺の阿彌陀といふ問二句の義既よ願解せり尙その取要の概言を聞ん答吾等の身心も本來彌陀の自動なりしことを知て從來の我見を懺悔し所有の命を壽光二徳の佛体に歸したてまつるこれを南無阿彌陀佛といふこれ則ち轉迷開悟二利の要術として一代通説の正意なる以て知るへし

法藏菩薩因位の時世自在王佛の所は在して諸佛淨土の因國土人天の善惡を觀見し无上殊勝の願を建立し希有の犬弘誓を超發せり五劫よこれを思惟し攝受を問法藏との如何答衆生の一信心よ方法よ固有せる无量

を諸佛の淨土とい名けたり 問无上殊勝の願を建立し
 希有の大弘誓を超發すとい如何 答完全の淨土を設け
 満足の業因を定め以て大乘の聖人小乗の聖人善人惡人
 一切の凡夫皆悉く吾當速轉迷開悟せしむへしと誓
 約す大經に説ところの四十八願莊嚴の淨土是なり願々
 皆不可思議にしてその体即ち南无阿彌陀佛なり 問五
 劫よこれを思惟し攝受すとい如何 答无上弘誓の本願
 既に超發せり何を用て五乘齊入の業因とせんやと五劫
 なる時日を以て深くこれか思惟と疑す乃ち思惟功成し
 修行果熟して諸佛超過の寶刹を設け法藏壽光の功德を
 開き万法の眞理を易行の名号よ攝受し衆生開悟の大道
 といふ満足せしとなり

重て誓らくくの名聲十方に聞んと

問重て誓ふとは如何 答前は無上殊勝の願を超發し今
 又名聲の十方に聞んことを期す故に重て誓ふといふな
 り 問毀譽褒貶を聽みず單に本分を盡すを能とす徒に
 名聲を欣ふは君子尙これを耻つ而るを佛にしてこれを
 求むその意果して如何そや 答佛のこれを期す決して
 我愛の所求にあらず唯衆生開悟の善便に供するのみ而
 して阿彌陀の覺体は十二の光徳を施す名聲豈十方に聞
 へざらんや

普く无量无边光无碍光炎王清淨歡喜智慧光不斷
 難思无稱光超日月光を放て塵刹を照したまふ一切の
 衆生に光照を蒙る

問 无量の如何 答 智光遍照して至らざるところなし
これを无量光といふ 問 无边の如何 答 有無の見
を離れて心平等なるこれを无边光といふ 問 无碍の如何
如何 答 方法を縁するよ心自在を得る故に无碍光とい
ふ 問 无對の如何 答 畢竟安住の所にして諸般の煩
惱を繫縛せられざるこれを无對光といふ 問 炎王の如何
如何 答 佛光能煩惱の薪を焼滅するを以て名けて炎王
光といふ 問 清淨の如何 答 佛光能貪染の毒を除き
清淨の信心を得しむ故に清淨光といふ 問 歡喜の如何
如何 答 佛光能瞋憎の毒を除き人をして喜悅の法を得せ
しむ故に歡喜光といふ 問 智慧の如何 答 佛光能愚
癡の毒を除き方法の眞理を悟らしむ故に智慧光といふ

問 不斷の如何 答 无間常恒の光徳によりて心々相續
するこれを不斷光といふ 問 難思の如何 答 ころ
を以て計るへからず故に難思光といふ 問 无稱の如何
如何 答 ことのを以て説くへからず故に无稱光といふ
問 超日月の如何 答 靈魂の幽闇を照す故に超日月光
といふ 問 塵刹を照すの如何 答 彌陀の眞理の普く
十二の徳光を放て心中所念の種々の國土を照したまふ
となり 問 種々の國土の如何を指すや山河大地の如き
をいふか 答 否す五欲の國常見の國勝見の國等をいふ
問 一切の群生の光照を蒙るとの如何 答 心中紛紜の諸
衆生彌陀の眞理より放つところの光輝を得て方て日來
の妄見を看破し純ら十二の光澤を歡ふこれを一切の群

生光照を蒙るといふ故に請ふ急きて万物の眞理即ち絶
對不二の名号を持念し速に諸佛絶超の寶刹に入らんと
を

本願の名号の正定の業あり至心信樂の願を因とす等
覺を成り大涅槃を證するに必至滅度の願成就したま
へりなり

問 本願の名号との如何 答 南无阿彌陀佛の名号を以て
頓悟頓入の往生を得せしむるに法藏薩陞の本願なり
問 正定の業との如何 答 正に眞正なり定に一定なり故
よ本願の名号を持念するに五乘齊く寶刹に入る眞正な
る一定の業行なりとなり 問 至心信樂の願との如何
答 第十八願なり具よの至心よ信樂して我國よ生れんと

欲し乃至十念せんといふへし 問 至心との如何 答 眞
實なり乃ち名号の壽光の二徳を具するを以てこれを至
心といふ觀經の至誠心亦同じ 問 信樂との如何 答 本
願の名号を念するももし能所各別ならん速に即得往生
の益を得ることなし然れに則ち彼我の妄見を懺悔し至
心の尊号を信受愛樂せし忽ち轉迷開悟して不退の報土
よ入るへしとなり觀經よの亦これを深心といふ 問 我
國よ生れんと欲すとの如何 答 自ら至心の尊号を信樂
して既よ壽光の洪徳を得れに則ち又他の衆生をして至
心の尊号を信樂せしめ同く轉迷開悟の地よ至らんこと
を力むへしこれ則ち法藏薩陞よ同心し彌陀の智願海よ
歸入せしものよして我國よ生れしめんと欲するの意な

りもし自利のみを計て利他を願みざるもの決して我
國も生れんと欲するの意もあらず乃ち我國も生れんと
欲するの亦觀經の回向發願心に同まこの三信の意を得
て以て名号を持念すへしこれ則ち乃至十念なり 問因
といふの如何 答往生の眞因なり 問何か故も至心信
樂の願を因とするや 答能所一体の信心を得て即ち極
樂淨土も生るへしもし口頭名号を稱するのみよて機法
二別するものならん敢て眞實報土も入ること能はざる
か故なり 問等覺を成との如何 答正定業たる名号を
信樂すれん則ち正定聚の菩薩位も住すこれを等覺を成
とのいふなり等覺といふ正覺も等き位といふ義なり 問
大涅槃を證すとの如何 答涅槃の梵語譯して滅度とい

ふ言説の相を滅度し名字の相を滅度し心縁の相を滅度
し滅度の相をも亦滅度すこれを大涅槃を證すといふ
なり 問必至滅度の願成就したまへんなりとの如何
答定聚も住し必ず滅度も至るといへるも第十一の本願
即ち南無阿彌陀佛の正覺を成就せるか故そとなり要を
いへん至徳の尊号を信樂するも又等覺を成り大滅度も
至るといふも皆悉く絶對不二の他力名号も因るとなり
問等覺を成ると大涅槃を證するとの一益か將二益か 答
二益なり 問二益の義を聞ん 答等覺を成ると上よ
ふところの正定聚の菩薩位なりこの菩薩一念も彌陀の
佛智を了するか故も一切方法も於て更も分別するところ
ろなし然りといへども衆生の三界の妄境も苦み六道の

迷衢へ艱めるを憐み種々の身を現し未來際を尽してこれか濟度をなすこれを穢土の益といふなり次は大涅槃を證すといふ此の如く種々の身を現して諸の衆生を度すといへども不可思議の佛智を得るか故よその身更よ本所を動せず亦度生の念あることなく任運无作よ大利益を施すこれ淨土よて得へき益なりされは二益なりと思ふへきなり

如來世に興出したまふ所以は唯彌陀ノ本願海と説くなり五濁惡時の群生海應に如來如實の言を信とへ

問 如來の如何 答 別して釋迦如來愍して三世の諸佛なり 問 何か故に如來興世の本意單に彌陀の願海を

説くよ在るか 答 勝易の二義あるを以てなり 問 勝易の二義どの如何 答 選擇本願の名号の万法の眞理即ち壽光二无量の功徳を具すこれを勝の義といひ機根の等差を論せずして自行化他を訓るよ易修易往なりこれを易の義といふかくの如き勝易の二義を具足するを以て如來出世して彌陀の本願を説くを本懷としたまへりとなり何となれは自行化他の要術は彌陀の本願よ過たるはなし蓋如來の興世は自行化他の要術を施用したまふよあれはなり故を以て无問自説の阿彌陀經よ少善不生の意旨を顯はし執持名号の眞説を示し我この利を見るか故にこの言を説といひて終よ十方の諸佛皆共よ不可思議功徳を稱讚すとのたたまへり 問 五濁惡時の群生

海と如何 答一劫濁劫を劫波といふ梵語なり分別
時節と華譯す乃ち時節の濁なり二見濁五見の濁なり
五見と一見の身見我々の所の見なり二に邊見有無
常の見なり三の邪見正理に惑へる見なり四の戒見
眞實正道の禁戒よあらざるものを以て眞正の戒なりと
執すこれを戒見といふ五の見取眞實正道の法よあら
ざるものを以て眞正の勝法なりと執すこれを見取とい
ふこれ五見なり三煩惱濁昏煩の法身心を惱乱するを
いふ四の衆生濁正よ背き邪よ歸し惡法を増長し善法
を廢滅すこれを衆生濁といふ五の命濁邪惡の命數倍
々延て徳善の壽量漸々滅すこれを命濁といふこれ則ち
五濁惡時なり蓋五濁惡時の衆生その數多大なること海

の如しといふ意を以てこれを五濁惡時の群生海といふ
なり 問應又如來如實の言を信すへしと如何 答如
來出世の本懷たる本願勝易の名号の妄談戲論よあらざ
るを以て如實の言といふなり應の字のべしと如何と
いふ意味なり乃ち大小乗の聖人すら彌陀の本願よあ
らその道俗共歸すへきところなしとて深くこれを信
受したまふ所謂荆溪の專以彌陀爲法門主と敬し天台の
諸經所讚多在彌陀と讚したまふか如しその他枚擧よ暇
あらず況や五濁の群生なるをや大幸にして彌陀易往の
本願ありこれを信受せずの豈又往生を得へけんや故
夫れこれと信する固よりそのハづのことなりとなり
能一念喜愛の心を發すれハ煩惱を斷せずして涅槃を

得る。凡聖逆謗齊く回入すれ。衆水の海に入て一味あるか如し。

問能一念喜愛の心を發すと如何 答一念どの能念所念一体の領解なり喜愛どの喜の法を歡喜し愛の法を愛樂す故よ果して吾等如來如實の言を信すれ。則ち法を喜愛するの機と喜愛せらるゝの法と各別なき妙法を喜愛するの一念を得たらんにいふ意なり 問煩惱を斷せしめて涅槃を得ると如何 答煩惱の心を轉して涅槃の理を得るなりもし煩惱の心を斷滅するときは涅槃の理亦證するの心なかるへし所謂灰身滅智の單空に墮せざるへからす乃ち一念喜愛の心を得れば煩惱を轉してその心を斷滅せず忽ち涅槃の理を證得すへしとな

り涅槃の梵語譯して滅度といふ滅の大患亦滅よ名け度の超度三界よ名く 問凡聖逆謗齊く回入するどの如何 答一念眞實の了解と得て轉煩得度の大益を蒙る凡聖逆謗の機を選ふことなしとなり凡の凡夫聖の聖人逆の五逆謗の謗法なり齊く回入するどの所謂五乘齊入の義よして乃ち同心一齊よ彌陀の願海よ回轉し歸入するとなり 問衆水の海よ入て一味なるか如しどの如何 答濁水あり清河あり長流あり短溝あり衆水區々なれどもすへて大海よ流入すれ。則ち一潮の味となるか如しこれ五乘齊入の意を譬喩し能發一念の利益を示すなり 攝取の心光の常照護して己能無明の闇を破すと いへども貪愛瞋憎の雲霧常よ眞實信心の天よ覆へり。

譬へん日光の雲霧に覆へるれとも雲霧の下明にして
闇なきか如し

問攝取の心光と如何 答万法を攝取する阿彌陀の佛
心十二の徳光を大千に放ちたまふとなりこれを攝取
の心光といふ 問常照護す如何 答誠一念眞
實の信心を得れば身心本來彌陀の攝取中に在ることを
了知し方て攝取不捨の大益を受け念々長時照見護念
せらるゝとなり 問己無明の闇を破すといへとも
如何 答無明といふ法界彌陀の一法身なることを
了知せずして彼我の境界を踏躡するを無明といふ今
己攝取照護の利益を得て能無明の闇を除き速に如來
の覺体歸すといへともといふ意なり 問貪愛瞋憎

の雲霧常眞實信心の天に覆へり如何 答願境よ
逢ふとき貪愛生じ逆縁に逢ふとき瞋憎起る雲霧の
るの譬なり乃ち怖るへき彼無明の闇なるもの既除
滅するを得るといへとも貪瞋の殘惑雲霧の如く尙常
眞實了解の信天を覆ふて任運無作阿陀彌佛日を見る
こと能はずとなり實に耻つへし悲むへきことなり 問
譬へば日光の雲霧に覆へるれとも雲霧の下明にして闇
なきか如し如何 答貪瞋殘惑の爲に彌陀佛日を遮
蔽せらるといへとも迷根の無明を打破する上既に凡
衆の攝よあらしむ譬ふるよ雲霧の覆へるときに昏闇既に
晴たれとも天日を見ること能はずされともその下分明
にして更過誤なきか如しとなりこれ一類の行者なり

信を獲得して見ても敬ひ大に慶喜すきは即ち横に五惡趣を
 超截す一切善惡の凡夫人。如來の弘誓願を聞信すきは
 佛は廣大勝解の者と云へり是人を分陀利華と名く
 問信を獲得して見て敬ひ大に慶喜するとは如何 答宿善開
 發して眞の知識の慈訓を受け彌陀佛光の朗接も預り能
 所不二の大信を得れば覆天の雲霧忽ち散して任運无作
 よ一眞法界の佛日を見ることを得る夫れ大に敬ひ且慶
 喜せざるを得んや慶喜の身心の悦樂をあらはすの言な
 り 問即ち横に五惡趣を超絶すとは如何 答即ち時日
 を隔てざるの稱なり乃ち見敬慶喜すれば即ち頓に超て
 五惡の所趣を横截す横に豎に對せるの言なり蓋豎に自
 力も名け横に他力も名くこれ一類の行者なり六要もハ

これ念佛眞實行者の信心の勝利を顯はすとのたまひ亦
 この意を略文類正信偈もハ必ず无上淨信の曉に至れハ
 三有生死の雲晴れ清淨无辱の光耀朗かよして一如法界
 の眞身顯はれ信を發して稱名すれば光攝護したまふ亦
 現生も无量の徳を獲得と演たまへり 問一切善惡凡夫
 人の句甚不審なり何となれば惡人よ蒙らしむるも凡夫
 の名を以てす頗るその當を得たり作善の人を何故も凡
 衆も難するや 答世論避惡就善の人を最上となす然れ
 どももし我見を離れざるるときはたとひ善事功業を起す
 も皆求名の器食利の材貢慢の道不平の具等も成りて眞
 實純正の善功と謂へからず況や善惡の待對思議の凡慮
 よして背法合塵の妄想なるをや諸教超過の佛法この言

の如き驚くも足らず 問如來の弘誓願を聞信すと何 答如來の阿彌陀よして弘誓の名号なり弘字の意 用之二義あり至徳の尊号の万法を惣攝すこれを体の義 といひ十方衆生の機根を選んず皆聞信することを得と れを用ひの義といふ乃ち一切の凡夫自力作業の善惡を回 心して他力自然の名号よ慈光の功德を具足することを得 聞信すととなり 問佛の廣大勝解の者といへりこの人を 分陀利華と名くといふの義如何 答かくの如く弘誓 願を聞信しその利益を蒙るものを大聖釋迦牟尼世尊の 廣大の勝解を得たる者なり分陀利華の如き者なりと言 へりとなり 廣狹大小の妄見を離るこれを廣大と名く勝 解の勝妙の解了なり分陀利華の人中の好華妙好華希有

華上々華最勝華なりといへり乃ち廣大勝解の法を以て 言ひ分陀利華の喩を以て名く 彌陀佛の本願念佛の邪見と憍慢の惡衆生の信樂受持 すること甚以て難し難の中の難あれ小過たるのな

問彌陀佛の本願念佛と如何 答勝易二種の功德を有 する至徳の尊號なり 問邪見と憍慢の惡衆生の信樂受 持すること甚以て難しと如何 答理を見て情を折ら ざるを邪見といひ自負貢高なるを憍慢といふこれ等の 惡衆生の至徳の尊號を信樂受持すること最も難し信樂 の万法の彌陀佛なるを忍許して自の忘情を抛ち念佛三 昧を愛樂して誦敬の念に住するをいひ受持の領納して 忘れざるをいふなり 問難か中の難これよ過たるはな

しと如何 答邪見憍慢の者の本願の念佛を信受する
 實は甚以て難しといふのみならず實は難の中の難斯も
 過たることなしとなり然れハ則ちこれハ反して理を見
 て忽ち情を折り知識傳持の佛語ハ歸すれハ本願の念佛
 を信受する實は甚以て易きのみならず實は易の中の易
 斯も過たるハなしと謂ハざるハからず見聞の人々夫れ
 これを領解せよ

正信念佛偈問答解上

正信念佛偈問答解中

米田治右衛門藏述

印度西天の論家中夏日城の高僧大聖興世の正意を顯
 し如來の本誓機ハ應するあとを明す

問印度西天の論家の如何 答その數多けれども本宗ハ
 ハ龍樹天親の二菩薩を取て首とす 問中夏日城の高僧
 ハ如何 答その數亦多し就中中夏ハハ曇鸞道綽善導の
 三師を列ね日域ハは源信源空の二師を取るなりこれを
 合して七高僧といふ 問大聖興世の正意を顯し如來の
 本誓機ハ應することを明すとは如何 答大聖ハ釋迦牟
 尼佛なり乃ち大聖出世したまふの由縁ハ既ハ上ハ辨す
 るか如く全く勝易の本願眞實の名號を説ハ在り无量壽

經よ如來世又與出したまふ所以の道教を光闡し羣萌を
 極ひ惠むも眞實の利を以てせんと欲してなりとのたま
 へる即ち是なり次は如來といふは阿彌陀如來なり蓋阿
 彌如來來の本誓たる勝易の名號の十方五乘の群機も應
 ふて自利々佗を計るの要術なりとなり聖教もまどへる
 凡夫われとさとりかたきかゆへよさとりよかなへる佛
 智も歸すれのもとより法性をいなれさりける自心の佛
 性をあらはすあり彌陀本願のゑこり佗力往生のみちそ
 のこゝろこれにありとのたまへる即ち是なりその顯し
 といひ明すといへるの乃ち三朝の高祖各論釋を製して
 佛典の所以偏彌陀の本願を説く在ることを顯彰し至
 徳の尊號の五乘齊入の妙門なることを説明せられしと

なり

釋迦如來楞伽山よして衆の爲よ告命したまはく南天
 竺に龍樹大士世よ出て悉く能有無の見を摧破せん大
 乗無上の法を宣説し歡喜地を證して安樂よ生せん

問釋迦如來楞伽山よして衆の爲よ告命したまはくとの
 如何 答釋迦具よの釋迦牟尼といふ梵語なり釋迦を能
 仁と翻し牟尼を寂默と譯す法相を建立して名句文身を
 現すこれ能仁なり性相を眞空して眞心參廓を得るこれ
 寂默なり故よ能仁の慈悲なり寂默の智慧なり悲智不二
 なれは能仁寂默一昧なりこれを釋迦牟尼といふ蓋釋迦
 如來楞伽山上よ在て説教したまへるの際遠く龍樹の説

を印可することを大衆に告命したまへりとなり起信の序に曰く如來の説は三種あり一は如來の自説二に他は加して説しむ三は懸許の説なり 問龍樹大士世に告命したまひしに即ち懸許の説なり 問龍樹大士世に出どの如何 答上菩提を求め下衆生を化すこれ則ち無比の大事なりこの大事を企圖するものを大士とす南天の龍樹その人なりこれを淨土の初祖とす故に世間に出現して一切衆生の慧眼となり魔教を排滅し正法を維持すへしとなり 問悉く能有无の見を摧破すどの如何 答有无の外道の妄見なり何となれ一切万法の因縁を以て生し因縁を以て滅す故に有といふんとすれは則ち念々遷流して必ず壞滅に歸す故に有と謂へからず果し

て壞滅するか又因縁を以て生起現成す故に无と謂へからず當に知へし有无の外道の妄見にして諸法の性相にあらざることを只妄見なるのみあらすもし有無の二邊に墮するときは自を損し他を損すその害勝て言へからず故に共に之を邪見といふ是を以て龍樹大士力を尽し思を竭して外道魔教の邪妄の見を悉く摧破すへしとなり 問大乘无上の法を宣説すどの如何 答大に包含す名け乘の運轉を義とす无上の法どの最勝の業なり乃ち万法を惣攝して十方の群迷を濟度するところの名號を宣示説明すとなり 問歡喜地を證して安樂を生ぜんどの如何 答歡喜地の佛階五十二の中の第四十一位なり蓋四十一の地位に進行せられしかとも自力修行を以

て三利圓滿するの難を了するが故に忽ち彌陀の本願至徳の尊號に乗じて諸の衆生と與ふ安樂淨土に往生せんことを願ふべしとなり

難行の陸路苦きあつとを顯示し易行の水道樂きあつとを信樂せしむ

問難行の陸路苦きことを顯示すとい如何 答聖道修行の至難なること猶陸路歩行の苦きか如となり蓋聖教よその五三の難を示せり 問乞ふその五三の難を擧よ答一に外道の相善菩薩の法を乱る二に無願の惡人他の勝徳を破す三に顛倒の善果能梵行を壞す四に聲聞の自利のみよして大慈悲を障ふ五に唯是自力よして他力の持なしと是なり惣してこれを言ひ佛道を求

むるよ我心を實愛して待對を繼續するものハ跛者の遠方よ達せんとするか如く修行最も苦難なり故に難行の陸路苦きことを顯示せりとなり 問易行の水道樂きことを信樂せしむとい如何 答壽光具徳の彌陀佛を信する因縁を以て淨土よ願生すその道泰詳よして最も安し何となれハ我愛の妄想を懺悔して阿彌陀佛よ歸入すれハ願力攝して容易く涅槃の彼岸よ到るべきか故なり猶海路の船よ乘りて順風を得たるか如しといふこの難易二道の判釋ハ十住毗婆娑論よ出たり論ハ龍樹の所造なり龍樹ハこの論を制して自身もこの法を専らにし亦衆生をして易行の名號を信樂せしむとなり尙詳しく知らんと欲せハ宜くかの論の易行品を見るべし

彌陀佛の本願を憶念せむ。自然に即時必定し入る
唯能常あ如來の号を稱して應あ大悲弘誓の恩を報そ
へしといへり

問彌陀佛の本願を憶念すとい如何 答易行の大道は歸
して至徳の尊号を憶念するとなり憶念持不忘しして
念の念々相續なり 問自然に即時必定し入るとい如何
何 答自の心のつからしめて然しからしむるなり乃
ち法爾として行者の思議はあらざるを自然といふ即
の言の所謂時日を隔てざるの義なり必の逆違せざるを
いふ定の動轉せざるをいふ乃ち易行の本願を憶念する
もの即時法爾として无違无動の菩薩位し入るへしと
あり 問唯能常あ如來の號を稱して應あ大悲弘誓の恩

を報そへしとい如何 答既し即入必定の洪益を得るも
の乃ち常あ餘縁を離へす單し至徳の尊號を稱念し自
行化佗して以て大悲弘誓の恩徳を報謝すへきその
づなりとなり无作の誓願を作して失道の指南をなし无
縁の聖慮を同くして黒闇の燈炬をなすこれこれを大悲
弘誓の恩といふなり

天親菩薩論を造て説かく无専光如來し歸命し修多羅
よ依りて眞實を顯そ横超の大誓願を光闡し廣く本願
力の回回に由て群生を度さんか爲あ一心を彰そ

問初の一句意如何 答天親菩薩の天竺の人として淨土
第二の祖師なり謂ところの論を淨土論といひ又往生論
といふ専ら阿彌陀佛を讚歎して力を利生開物し盡す故

よ本宗聖教の中論主といへるこの菩薩を専稱する
 なり問无尋光如来歸命すとい如何答尋よ二種あり
 一よの貧瞋癡慢等の煩惱これを内尋と名け二よの財
 産什器田宅衣服等これを外尋と名く阿彌陀佛の智光の
 更よこの二種及ひ所知障等よも尋らるゝことなきを以
 て乃ち尽十方无尋光如来といふなり歸命といふの身
 心を阿彌陀佛に歸投して私意の計量を離れたるをいふ
 註論よ夫れ菩薩の佛に歸す孝子の父母に歸し忠臣の君
 后に歸して動靜已よあらず出沒必ず由あるか如しとい
 へる即ち是なり問修多羅よ依て眞實を顯すと如何
 答修多羅又素世覽といひ或の修妬路といふ梵語なり契
 經と譯す契の契合よして上眞理よ契ひ下衆機よ合す經

の常法貫攝の義あり合修多羅といへるの釋迦佛の彌陀
 の本願を説きたまひし三部の妙典なりこれを菩薩の正
 依とす法性よ依り二諦よ順するか故よ顛倒を離れ衆生
 を攝して畢竟淨よ入らしむるか故よ虚偽を離るゝこの顛
 倒を離るゝと虚偽を離るゝとの故を以て眞實といふな
 り故よ眞實といふの即ち歸命するところの阿彌陀如来
 なり問横超の大誓願を光闡すと如何答眞實なる
 彌陀の大誓願の自力修行の豎出よあらざるを以て横と
 名け攀縁待對の迂路よあらざるを以て超と名く論主の
 光くこの誓願を闡張したまへりとなり問廣く本願力
 の回向よ由て群生を度さんか爲よ一心を彰すと如何
 答十方微塵世界よ充滿したまへる無尋光如来の名號を

聞けいかなる者も心々相續し他想間雜なくして速に
無上佛果の正覺を登るされぬ彌陀の本願力の光壽二无
量の功徳を歸命の一心より回向したまふとなり回向施
よ名け向の向他よ名く群生を度さんか爲どの利他を計
るなり一心を棄すどの利他の爲に自利せるなり論主の
廣く群生を度さんが爲よ自利利他圓滿せる願力眞實の
回向よ由て一心決定せられしとなり註論よいなく一心
といふの天親菩薩自督の詞なり言の无尋光如來を念し
て安樂よ生せんと願す心々相續して他想間雜なしと是
なり

功徳の大寶海よ歸入せられぬ必き大會衆の數よ入あ
を獲蓮華藏世界よ至ることを得れば即ち眞如法性の

身を證せしむ煩惱の林よ遊て神通を現し生死の菌よ
入て應化を示せといへり

問功徳の大寶海よ歸入すどの如何 答普願の尊號よ包
含するところの功徳の不可稱不可說不可思議にしてそ
の廣大なること猶大海の渺々としてその津涯を見ざる
か如しこの功徳の大海よ歸して一心決定の了解を得た
らんよのといふ意なり 問必ず大會衆の數よ入ことを
獲どの如何 答既よ一心歸命の了解を得たるもの必
定して彌陀正覺の大會よ入ことを獲へしとなり大會衆
どの諸上善人と一所よ會衆して常よ如來の覺体を拜見
し恒よ法身の説法を聽聞する人數よてあるなり 問蓮
華藏世界よ至るよとを得るとの如何 答蓮華藏世界の

心の了解を得たる大會衆の人の安住する宅なり何とな
 れんその心最も澄潔よして無明煩惱の業感よ汚穢せら
 れざるハ猶蓮華の淤泥よ染らざる徳よ等けれハなり
 問即ち眞如法性の身を證せしむとハ如何 答眞ハ眞實
 よして虚偽よあらざるを顯し如ハ如常よして變易なき
 ことを表す法性の万法の体性をいふ蓋性の必然の義不
 改の義なり乃ち蓮華藏世界よ安住すれハ回向の本願力
 よよりて直よこの眞如法性の身を證得せしむとなり
 問煩惱の林よ遊て神通を現し生死の菌よ入て應化を示
 すとは如何 答既よ眞如法性の妙身を證して極樂淨土
 の果を得つれハ則ち魔郷よ還來して衆生の苦縛を度脱
 すへしといふ意味をあらハすなり乃ち煩惱の林よ遊ひ

生死の菌よ入て猶獅子の園林よ遊戯するか如し神通
 を現すとハ飛鳥の自在よ去來するか如く靈神通達して
 業繩よ繫縛せられざるをいひ應化を示すとハ明月の衆
 水よ影さるか如く應同變化して衆生と利益するをいふ

正信念佛偈問答解中

ち仙術の經文を焚燒し无量壽佛の本願を信じて極樂淨
 土に歸したまひしとなりこれ則ち歸法の行狀を示すの
 一なり今時邪教も惑溺するもの幸に値佛の良縁を得れ
 り須らく亦從來所信の經文を焚燒する猶彼和尚の如く
 すへし
 天親菩薩の論を註解して報士の因果誓願も顯を往還
 の回向は他力より由る正定の因は唯信心なり。感染の凡
 夫信心發それは生死即ち涅槃なを證知せしむ必ず
 无量光明土に至れば諸有の衆生を皆普く化すといへ
 り

問天親菩薩の論を註解すとい如何 答鸞師の註論二卷
 を制して天親菩薩の淨土論を詳解せられしとなり 問

報士の因果とい如何 答報士の因果の正定の業たる至
 徳の尊號を信樂するこれなり報士の果とい信樂の因よ
 由て招くところの佛果をいふ即ち常樂我淨なり常住不
 變を常といひ湛然寂靜を樂といひ自在無尋を我といひ
 清淨无垢を淨といふこれを報士の因果とす 問誓願よ
 顯すとい如何 答この報士の因果とい共彌陀如來
 の誓願成就の名號に在ることを顯はされしとなり略文
 類の正信偈よ如來の本願稱名なることを顯はすとい
 へり 問往還の回向とい如何 答往相の回向とい誓願
 より自ら轉迷開悟して彌陀の本土に歸去するをいふ
 回向の回心よして向の回向とい自ら佛果
 を得れば則ち生死の魔郷に還來して他をして轉迷開悟

せしむるをいふ同の同施よして向の向他なりこれを往
 還の同向といふ問他力よ由るとの如何答五念の大
 行たる往相と還相との二種の同向のその本を求むるよ
 共よ他力よ由來すとなり他力との彌陀の本願絶對不思
 識の力なり問正定の因の唯信心なりとの如何答報
 土の眞因たる五念の不行の既よ本願他力の不思議よ
 るか故よ吾等正定聚よ住し必ず滅度よ至るべきの因の
 唯誓願成就の名号を聞て眞實信心を了得するのかりそ
 となり唯の餘事を借らざるよ名く信心の正信よして能
 所各別の邪信よあらずといふこゝろなり問惑染の凡
 夫信心發すれの生死即ち涅槃なりと證知せしむとは如
 何答佛性よ三種あり一よの自性住佛性二よの引出佛

性三よの至徳果佛性なり一切衆生自性清淨の佛性を具
 有すといへども无明煩惱よ覆蔽せらるゝを以て死此生
 彼流轉の夢裡よ苦む故よ眞妙の勝法を以て隠没したる
 佛性を引出し而して生死出離の佛果よ至るこれ三佛性
 のこゝろなり今惑染の凡夫どの業惑に染汚せらるゝの
 凡夫なれとも内心よ本覺阿彌陀の性徳を具すれば名号
 即ち自性住佛性なり不思議の誓願たる眞妙の勝法よ依
 りて眞實信心を發得して以て證果の因とすれの名號即
 ち引出佛性なりこの眞實信心の正因よよりて無量壽不
 可思議の南无阿彌陀佛の妙土よ至れ亦名号即ち至徳
 果佛性よてあるなり生死即涅槃の句の名号不思議の願
 土よ至れ生死の厭ふへきもなく涅槃の欣ふへきもな

しとなり涅槃の梵語譯して不生不滅といふ乃ち生滅即
不生不滅なれば遠く外に佛果を求むべきをわらすとな
り 問必ず无量光明土に至れに諸有の衆生皆普く化す
との如何 答彌陀佛智の光明の且十二の相を説くと
いへどもその實の无量なるを以て无量光明といふ今眞
妙の勝因を得て无量光明の實利に至るこれ往相なり既
よして又生死待對の林園に遊戯し自在に諸有の群迷を
化益すこれ還相なりこれ一往の義なりその實をいへり
萬行圓備の嘉号よよりて法身同體の功徳を領し一心既
よ決定を得れり無量の佛智満足するを以て能度の佛な
く所度の生なし所謂一佛成道觀見法界草木國土悉皆成
佛といへるこれなりこれを无量光明土に至れに諸有の

衆生を皆普く化すといへりとなり
道綽聖道の證し難きあとを決して唯淨土の通入をへ
きあとを明と萬善の自力かれの勤修を貶しむ圓滿の
徳號は專稱を勸む三不三信の誨慇懃にして像末法滅
同く悲引と一生惡を造れとも弘誓は値ひぬれも安養
界に至て妙果を證せといへり

問道綽聖道の證し難きことを決して唯淨土の通入すへ
きことを明すと如何 答道綽の淨土の第四祖よして
亦支那の人なり衆生佛性を具有しなから徒に生死の迷
衢に彷徨するもの全く聖淨二種の勝法に依らざるか
故あることを明し終に機教の相應せざるに乾木を以て
水を求むるが如く濕木を以て火を求むるか如くなりと

て聖淨二門の難易を辨し吾等をして難證の聖道を擱き
 専ら易往易修の淨土を修せしめらるゝとなり淨土の通
 入すへきとの念佛一門の五乘齊しく證入することをお
 らへすと成り問萬善の自力なれ勤修を賤しむとの
 如何答自力との待對の心なり待對の我心を以ていか
 よ萬善を勤修するも眞實の安養界に至ること能はざる
 を以て敢てこれを賤しんと問圓滿の徳号の專
 稱を勤むとの如何答萬徳の大惣相圓融満足の名號の
 絶對不二よして涅槃の眞因なるを以て偏よこれを專稱
 せんことを勤めらるゝとなり問三不信の誨慙懃と
 の如何答道源徳母の名号を信するその純厚なるを淳
 心といひその決定せるを一心といひその無間なるを相

續心といふこれを合して三信とす乃ち如實修行なりも
 し若存若亡して一心決定せず念々間斷して如實の修行
 なきの全く三信よ違背するを以てこれを三不といふな
 り蓋この三不信の誨を慙懃深切ましたまへりとなり
 この三不信の誨を慙懃深切ましたまへりとなり
 問像末法滅同く悲引すと如何答念佛の一門の正像
 末法の三時よ通して同一齊等よ衆生を悲引すと成り特
 留斯經の意なり悲引の悲愍引接なり問一生惡を造れ
 とも弘誓の値とは如何答一生惡を造れともとの臨終
 よ始めて善知識よ遇へる下三品の機なれともといふ意
 なりこの下三品の人遇善の後一念も惡心あることな
 しされは一生の弘誓の値遇するの以前をいふ然るよ今

世間多く沙汰するか如き弘誓も値といへとも一生
 造悪の凡夫なれ呼吸止滅の時あらずの悪業煩惱を
 捨離する能はず是付佛法の魔賊よして大に民心を毒
 害するものと心得へしされに従來の一生造悪の凡夫な
 りしかとも壽光二无量の弘誓も値遇せぬ忽ち轉悪成善
 して即ち安養界の往生を得るあり聖教も善知識の言の
 したる歸命の一念を發得すればそのときをもて娑婆の
 かへり臨終とおもふへしといへる即ち是なり問安養
 界に至て妙果を證すと如何答憂惱なきを安といひ
 老死せざるを養といふ聖教も足る无憂の地を踏て身の
 不老の郷お居すといへる即ち是なりされぬ一念本願も
 歸入して我々所の壽命既も竭れぬ直よこの安養の世界

よ至りて无上の妙果を證得するとなり无上の妙果とい
 ふは大涅槃なり

善導獨り佛の正意を明あいて定散と逆惡とを矜哀と
 たまふ光明名號の因縁を顯し本願の大智海も開入も
 きた行者正しく金剛心を受け慶喜一念相應の後章提
 と等く三忍を獲れし即ち法性の常樂を證せといへり

問善導獨り佛の正意を明あすとい如何答善導の亦支
 那の人よて眞宗第五の祖古今階定の明師なり選擇集よ
 善導一師よ依るの語あり以て餘師に一準すへからざる
 を知るへし故よ本宗も宗師と稱する多くな今師を指す
 なり佛の正意を明あすとい大聖興世の正意偏よ万機普
 益の本願を説くよ在ることを諦認説明せられしとなり

問 定散と逆惡とを矜哀したまふと如何 答 これ即ち
 釋迦如來の正意善導和尚の本心なり定の息慮疑心の機
 散の癡惡修善の機逆の五逆にして惡の十惡なり一は父
 を殺し二は母を殺し三は佛身より血を出し四は阿羅漢
 を殺し五は和合僧を破るこれを五逆とす十惡といふは
 殺生偷盜邪淫を身の三惡とし兩舌惡口妄言綺語を口の
 四惡とし貪欲瞋恚愚癡を意の三惡とする是なり逆惡の
 機の報土よ生るへからざるの言を俟すかの定散二善の
 如きの共よ貴むべき行業なりといへとももしこの二善
 よ止るときは无上の妙果を證すること能はず故に和尙
 は釋迦如來の正意を領納して同く定散と逆惡とを矜哀
 したまふとなり 問 光明名号の因縁を顯すと如何

答 光明の不可思議光なり名号は無量壽如來の名なり乃
 ち彌陀如來の光壽二无量の本願を以て一切の群生を化
 益したまふこの本弘誓願を増上の縁といふ宿善開發の
 機善知識の慈訓を受けて眞實智慧の信心を得るこれを正
 定の因といふされは正定の因と増上の縁と和合すると
 ころの一大事因縁を以て諸佛の世に出現し衆生に轉迷
 開悟を得るなりその顯すと云ふは聖教も所謂光明名號
 を以て十方を攝化したまふ但信心をして求念せしむれ
 は上一形を盡し下十聲一聲に至るまで往生を得やすし
 故に別意とすといへる即ち是なり 問 本願の大智海は
 開入すとの如何 答 他力佛智の廣大なること猶滄海の
 茫々たるか如きを以てこれを本願の大智海といふ開入

の開示悟入なり法華經に曰く衆生をして佛の智見を開
かしめんか爲の故も世も出現したまふ衆生も佛の智見
を示さんか爲の故も世も出現したまふ衆生をして佛の
智見を悟らしめんか爲の故も世も出現したまふ衆生を
して佛の智見道も入らしめんか爲の故も世も出現した
まふ當も知るへし諸佛の唯一大事因縁を以ての故も世
も出現したまふと一大事の因縁の乃ち諸法實相を説よ
あり然るも今彌陀の本願の愚惡の凡夫をして亦諸法實
相の深奥も契ひしむるの妙法なるか故も觀經の下々品
よの諸法實相除滅罪の法を説と宣へり彼此同一よし
共も一大事の因縁なること以て知へし問行者正しく金
剛心を受くとい如何答一大事の因縁を得て本願の大

智海も開入せし念佛行者の正しく金剛の心を受くとなり
正しく受くといふの能受と所受との分齊を離れて自然も
無量の快樂を受くこれを正しく受くといふなり金剛と
水火刀刃も如何ともする能はさる方法の眞理彌陀の本
身も譬ふ梁の舞論も一も煩惱の山を破す二も無餘の功
徳を引く三も堅實もして破壊すへからす四も用利もし
て能く智慧をして一切の法も通達して无尋ならしむるの
四用を擧て乃ち金剛の徳となす問慶喜一念相應の後
とは如何答慶喜の憂惱を脱れたる結果なりもし憂惱
の依然存すれとも慶喜勃々として起るといふか如きハ
水火の難左右も在れども平安満悦なりといへるか如し
その道理なきこと更も言を待て知らざるなり今時愚信

者の中よこの類尤も多し注意せずんあるへからす乃
ち正しく金剛心を受けたるもの無始已來の迷夢を覺し
煩惱惡業の重擔を捨るか故よ原泉の混々たるか如く大
慶喜悅の情晝夜間斷なしとなり御文章よ曰く身のふき
ところもなくをとりあかるほとよおもふほいたよろこ
ひの身よもうれしさかあまりぬると即ち是なり一念相
應との信心よ二心なきか故よ一念といふと説れて法界
身の彌陀よ歸すれん万般の事物すへて佛体なるを以て
見聞覺知の念々皆彌陀の一念なりとなりこの了解を得
て實地活用するを乃ち相應といふ問章提と等しく三忍
を獲れん即ち法性の常樂を證すと加何答頻婆娑羅
王の後章提希夫人の十方の群機を率先して他方の願海

よ歸し慶喜一念の了解を開き忽ち三忍を得て即ち法性
の常樂を證せられき乃ち吾等も慶喜一念相應を得るの
後この章提夫人と等一の結果を得へしとなり一よ信
忍淨信以て貪染の惑を破し二よ喜忍慶喜以て瞋憎の惑
を破し三よ悟忍智光以て無明の闇を破すこれを三忍と
す法性の常樂と有對攀緣の相を離れて万法如常の理
性即ち阿彌陀よ歸すれん受樂常よ間斷なきを以てこれ
を法性の常樂といふなり

源信廣く一代の教を開て偏安養ふ歸して一切を勸
む專雜の執心は淺深を判じ報化の二土正しく辨立せり
極重の惡人は唯佛を稱すれは我亦彼攝取の中お在り
煩惱眼を障へて見たてまつらすといへとも大悲倦さ

ことあくして常に我を照したまふといへり

問源信廣く一代の教を開くと如何 答本宗第六の祖
師を源信和尙といふ日本の人なり蓋和尙の廣く一代の
藏教を開き明く如來の本意を了せられしとなりその旨
今師所造の往生要集を見へたり 問偏く安養に歸して
一切を勤むと如何 答如來出世の本意専ら勝易の二
義を含みたる本願の名號光壽二无量の眞理を聞信して
自他二利を求むるよ在ことを開見し自ら一偏く彌陀の
本願安養の淨刹に歸して尙十方一切の群生を普勸化導
せられしとなり蓋偏に彌陀の本願に歸すれは諸善の自
ら行のれ万徳圓備すへけれはなり 問專雜の執心の淺
深を判すとい如何 答能所不二にして念佛を專修する

ものその執心牢固にして最も深く機法二別にして行
業を雜修するものへの執心薄弱にして尤も淺しとな
り 問報化二土正しく辨立せりとい如何 答專修深信の
者の十即十生百即百生にして皆悉く報土を得生ず雜修
淺心の者たはとひ往生するも報土の往生を失し方便化
土よ止りて萬法よ於て自在ならず實は專雜淺深の執心
の報化二土の結果を異はす欣求淨刹の行人深く注意す
へきなり已に大經に明信佛智の念佛行者の大利を得と
し佛智疑惑の雜業の者の大利を失すとして二行の得失
を明示せられたり懈慢邊地疑城胎宮これを化土といひ
身土不二なるこれを報土といふ眞佛土の卷は不可
思議光如來土の亦无量光明土なりといへる是なり和尙

菩薩所胎經群疑論等を引てこの報化二土の得失を決
 判辨立せられしとなり 問極重の悪人の唯佛を稱すれ
 我亦かの構取の中よ在りとの如何 答彌陀超世の本
 願固より五乘齊入といへとも意濟凡を以て大悲の首と
 す極重の悪人豈最幸なららんや唯深く同心して餘行
 を雜へす念佛を専修して速よ彌陀智光の攝取よ預るへ
 し我も亦既よ他力よ偏歸し彼攝取の中に在りて自行化
 他すべしとなり 問煩惱眼を障へて見たてまつらすと
 いへとも大悲倦きことなくして常よ我を照したまふと
 の如何 答自他共よ轉迷開悟し速よ報土よ得生して一
 切の苦を離るゝの吾本望といふといへとも奈何せん因
 縁未熟のものゝ昏煩惱亂の法よ心眼を遮蔽せられ攝光

の中よ遊て報佛を見ること能はざるを然りといへとも
 彌陀の大悲の一日も倦むことなく片時も解ることなく
 常よ照念して彼人を愛愍したまふとなり乞ふ急き弘願
 を信樂して攝取の光益を蒙れよ
 本師源空佛教に明よして善惡の凡夫人を憐愍たたま
 ふ眞宗の教證を片州よ興志選擇本願惡世よ弘むる生
 死輪轉の家よ還來するまとは決するよ疑情を以て所
 止とを速に寂靜无爲の樂よ入ることよ必ず信心を以
 て能入とすといへり

問本師源空佛教よ明よして善惡の凡夫人を憐愍したま
 ふとの如何 答本師源空の眞宗第七の高祖よして日本
 念佛の開基なり大聖出世の正意を知て如來の本願万機

を普益することを了し自ら他力の大道に歸して善惡一切の凡夫人を憐愍したまふとなり 問真宗の教證を片州よ興し選擇本願惡世よ弘むるといふ如何 答真宗といふの偽宗よ對し假宗よ對するの名なり偽宗といふ眞理を癡壞する外道の宗旨をいひ假宗といふ弘願眞宗よ入らしむる爲よ建立せし方便の宗をいふ教證といふ發行信證の略なりされハ光壽二无量の眞理の本願を説明敷演せるこれを眞宗の教としこの教よ明すところの名號ハ不行よしして行するところの眞如の不行なりこれを眞宗の行としこの妙行を信樂して能所不二の了解を得るこれを眞宗の信としこの行信よ由て招くところの寂靜无爲の樂を乃眞宗の證となすこの眞宗の教證ハ釋迦如來の眞

説なり蓋眞實の發行信證その体本選擇本願よ在り法藏菩薩の彼此を親見して鹿を捨細を取り思惟功空からずして遂よ成就したまへる絶對不二の名願无上超世の妙土これを稱して選擇本願の願土といふ乃ち本師源空ハ力を奮ふてこの眞宗の教證を片州よ興起せしめ心を盡してこの選擇の本願を惡世よ弘通したまへりとなり 問生死輪轉の家よ還來することハ決するよ疑情を以て所止とすとハ如何 答幸よしして釋迦如來の正説よ遇といへとも再び生死の家よ還來し輪轉の里よ彷徨して進て寂靜无爲の樂よ入こと能はざるものは疑情の爲よ止ぬられしよ決すとなり疑情といふ臆味の我想眞理を誤認するものをいふ 問速よ寂靜无爲の樂よ入ることハ必

そ信心を以て能入とすと如何 答速疾く彼法藏薩
 陞の設けたまひし諸佛絶超の淨土即ち湛然寂靜にして
 法爾自然なる无爲の樂境も悟入すること必す我の
 疑情を抛去して壽光滿徳の尊號を信樂する眞實信心を
 以て正しくその能入の因とすへしとあり
 弘經の大士宗師等无边の極濁惡を拯濟したまふ道俗
 時衆共に同心ゑて唯この高祖の説を信すへし
 問弘經の大士宗師等无边の極濁惡を拯濟したまふと
 如何 答上來の列祖等皆上求下化の大事を企圖せらる
 べを以てこれを大士といひ悉く本宗の導師なるを以て
 これを宗師といふ弘經とこの大士宗師彌陀の本願を
 説き諸佛の素懷を顯はし釋述の眞意を示し以て无边无

量の迷海も沈没する極濁惡のものを拯濟したまふとな
 り 問道俗時衆共に同心して唯この高祖の説を信すへ
 しとの如何 答出家在家の別なく十方の衆生の心を同
 ふして共に入生の无常なるを思ひ出離生死の目的を立
 自利利他の洪益を計り唯この高祖の懇懇なる眞説を信
 して速く无量壽如来の歸命し不可思議光も南无したて
 まつり以て眞實の正信心佛を得よとなりこれ則ち親鸞
 上人の本偈を製作したまへる素情なり

正信心佛偈問答解下

明治十九年十一月十七日御届

同 年 同 月 日 出 版

定價金三拾錢

大阪府平民

註解者 小杉 陶藏

東京麴町區飯田町四丁目
二十一番地家木徳兵衛方
寄留

東京府平民

出版人 田中善太郎

東京日本橋本銀町三丁目
十四番地

米田治右衛門編輯

淨土三部妙典延書

古來三部經ノ延書満足ノモノ擧シヨノ辨力ヲテ佛意ノ在ルトコロヲ顯ス實ニ完全ノ良書ナリ

小杉陶藏著

看教用意

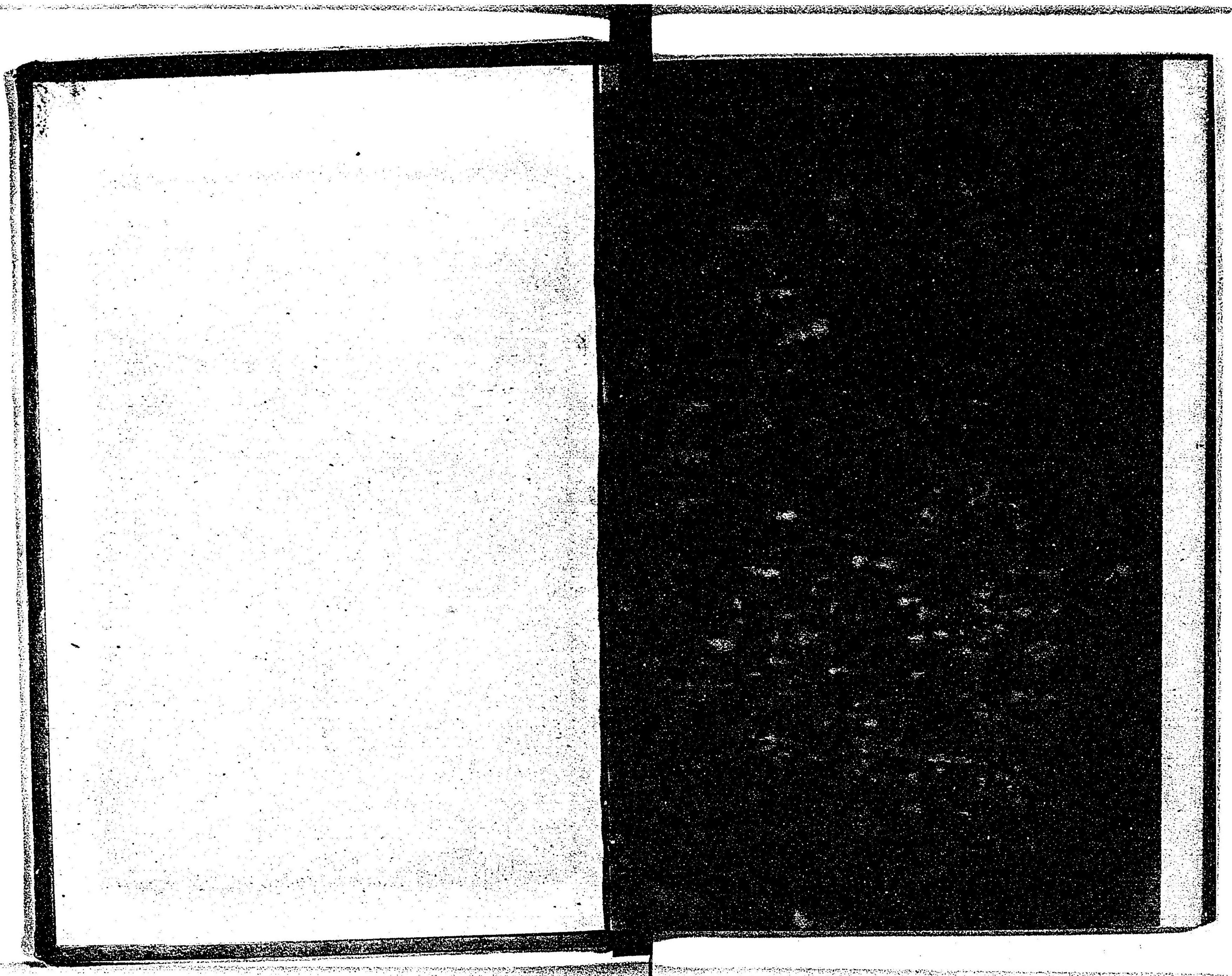
看教ノ人注々經文ノ會通ニ苦ムコノ書ソノ用意ヲ明辨ス

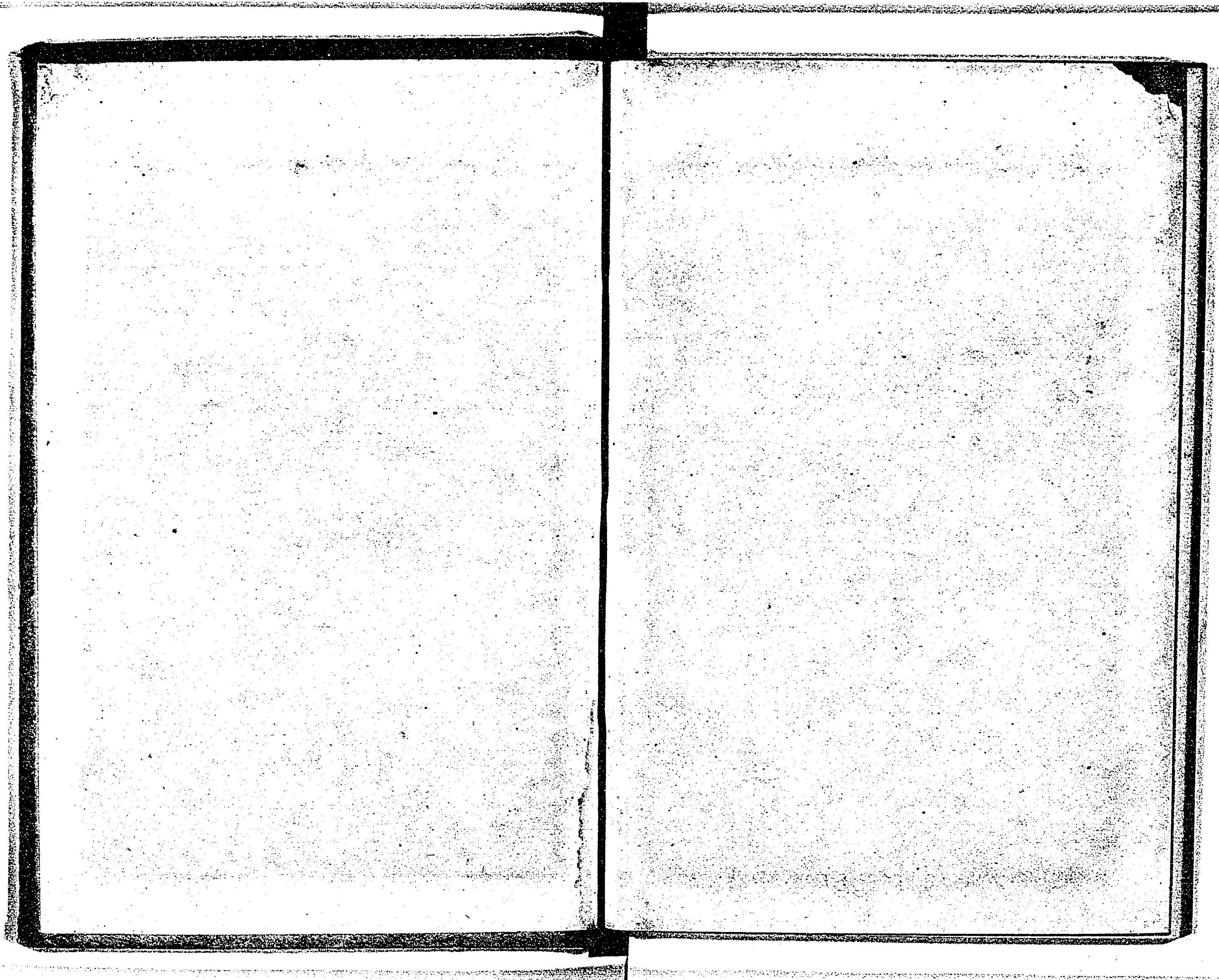
米田治右衛門閱

小杉陶藏述

正信念佛偈問答解

コノ書 ノ問答ヲ以テ正信念佛偈ノ意味ヲ解ス佛祖ノ真意一目瞭然





78

